

兵庫県保険医協会北阪神支部・第30回総会記念講演

# 地球温暖化と異常気象

市民公開  
入場無料

季節外れの台風や豪雨等、これまでなかったような異常気象が頻発し、地球温暖化の影響が言われています。温暖化によりどのようなリスクが生じるのか? 気候変動に関する政府間パネル第5次評価報告書を執筆され、温暖化に関わる数々の著書のある江守先生にわかりやすくお話いただきます。

日時 **10月4日(日)** 14時30分～16時30分

会場 **伊丹市立図書館ことば蔵** 地下多目的室1

講師 **国立研究開発法人国立環境研究所地球環境研究センター**

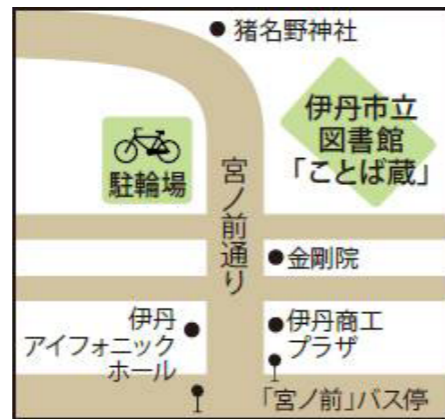
気候変動リスク評価研究室長 **江守 正多**先生

定員 **100人**



国連気候変動枠組条約における国際交渉では、産業化前を基準に世界の平均気温上昇を2℃以内に抑えるという目標が掲げられています。しかし、新しく発表されたIPCCの第5次評価報告書によれば、この目標を達成するためには、世界の二酸化炭素排出量をできるだけ速やかに減少に転じさせ、今世紀末を目途にゼロに近づけていかねばなりません。

温暖化の進行は人間社会や生態系にリスクをもたらしますが、徹底的な排出削減対策も社会経済に機会とともにリスクをもたらします。そのようなリスクの全体像には大きな不確実性があると同時に、リスクの発現の仕方は国、地域、世代や様々な社会属性によって異なります。この状況に私たちはどう向き合ったらいいのか、リスク管理の観点から考えます。【江守 記】



※阪急・JR伊丹駅より徒歩約10分。近隣の有料駐車場をご利用ください。

**講師ご略歴** 1970年神奈川県生まれ。東京大学教養学部卒業。同大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。97年より国立環境研究所に勤務。2006年より国立環境研究所地球環境研究センター温暖化リスク評価研究室長、11年より室名変更のため気候変動リスク評価研究室長。13年より地球温暖化研究プログラム総括。専門は地球温暖化の将来予測とリスク論。気候変動に関する政府間パネル第5次評価報告書主執筆者。著書に「異常気象と人類の選択」等。2012年度日本気象学会堀内賞受賞

お問い合わせは、TEL: 078-393-1807 小西・横山・小川まで

(切り取らずにご返信ください) **【お申し込み】 FAX: 078-393-1802**

- 総会議事(伊丹市立図書館ことば蔵会議室1 13:30～)に参加します ( )人
- 記念講演(伊丹市立図書館ことば蔵地下多目的室1 14:30～)に参加します ( )人
- 懇親会(ブルワリービレッジ長寿蔵 17:00～)に参加します ( )人

地区 \_\_\_\_\_ 医療機関名 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

兵庫県保険医協会

# 北阪神支部 ニュース

2015年7月25日号 No. 250  
発行者 兵庫県保険医協会北阪神支部  
支部長 中井通治  
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31  
神戸フコク生命海岸通ビル5階  
☎(078)393-1801 FAX(078)393-1802  
http://www.hhk.jp/

レクリエーション企画/丹波焼体験

# 自分だけの作品づくりに チャレンジ



陶芸家・上中稲右衛門氏(左端)が土をこね、成形していくあざやかな手つきに驚く子どもたち

北阪神支部は6月20日、伊丹市きららホール・創作室で、恒例となったレクリエーション企画「丹波焼陶芸体験」を開催し、会員、スタッフ、家族ら22人が参加した。

丹波焼陶工の上中稲右衛門氏がまず、手本として手回しろくろを使った皿の作り方を実際に見せながら説明。その後、参加者は、なかなか思うような形にならない土に苦労しながら、皿や茶碗、どんぶりなど、それぞれ自分だけの作品を作り上げた。この日作られた作品は、丹波市にある「稲右衛門窯」で焼成され、参加者に届けられる予定。

(2面に参加者の感想を掲載)

(1面からのつづき)

## 丹波焼陶芸体験・参加した子どもさんからの感想

### 自分で作った食器で好きな物食べたい

私は、陶芸体験で茶碗とお皿を作りました。

茶碗は、まずほそ長く土をのぼすのはできたけれど、つけていっているうちにだんだん形がおかしくなって、きれいにしているうちに、どんどんうすくなっていき、たいへんでした。お皿は、茶碗ほど手を奥に入れずに形をきれいにできたので、うまくいきました。

私は自分で作ったお皿や茶碗で好きな物を食べたいと思います。むずかしかったけれど楽しい陶芸体験ができました。(宮木 紬希 11歳)



思い思いに土をこねて...

### 布によって もようがちがうことを発見

6月20日にきららホールで陶芸をしました。私は3回目だったので、少しは知っていました。なので、前、失敗したことを思い出しながら作りました。

2回やったのでスムーズにできて、おさら1枚、コップ1個、はし置き2つを作ることができました。

私は前、作るのに必死で、形を考えず、シンプルでした。けど、今回はきれいな形になるよう、心がけていました。すると、布でまわりをふく時、布によって、もようがちがうことに気づきました。

私はそれに気づいた時、とても小さなことだけど、うれしかったです。もっといろいろなことを陶芸で、発見してみたいです。

良い経験になりました。(樋口 侑紀 11歳)

【伊丹市 工藤歯科医院】



### ☆北阪神支部ニュースへの投稿を募集しています

支部ニュースへの投稿を募集しています。  
日常診療にかかわることや、主張、趣味のお話などお寄せください。

TEL 078-393-1801 / FAX 078-393-1802 e-mail junki@doc-net.or.jp 担当;横山まで

～平和行進 小泉幹事が激励あいさつ～

## 「戦争法案」力をあわせて廃案に

広島、長崎の原爆投下から70年——。戦後・被爆70年を核兵器のない世界への転機としよう、8月に広島・長崎で開催される「原水爆禁止2015年世界大会」をめざし今年も平和行進が行われた。日本全国の市町村を結んで、核兵器廃絶をアピールして歩き続ける「国民平和行進」は1958年にはじまり、今年で57年目となる。小泉勇幹事(原水爆禁止伊丹協議会理事長)が参加し、7月8日に伊丹市役所前に到着した一行を出迎え、激励のあいさつを行った。あいさつの内容を紹介する。



参加者を激励した小泉理事

今年も年に一夜「七夕さん」のように、元気な皆さんとお会いできました。私も、核廃絶の見通しがつくまで死ねません。

人道的立場から世界の大多数の国が、核保有国に対して、核兵器禁止条約を求める交渉に参加するよう求めるようになってきたのは、被爆者の努力とそれを支えて70年間、原水爆禁止日本協議会等で活動してきた国民の協力があつたからでしたが、唯一の被爆国日本の政府は、米国の核の傘



核廃絶をアピールするため、集まった参加者

で守られる遠慮から、一貫して消極的でした。さもないければ、核兵器禁止条約は成立していたでしょう。

加えて、今年は安倍政権が、米国が世界中で行う戦争と一緒に戦う憲法違反の集団的自衛権の行使容認の安保法制を、国民に認めさせようとしています。まず皆で力をあわせて、この企みを打ち壊しましょう。



### 第335回幹事会だより

7月2日(木)伊丹市立産業・情報センター会議室B 参加 7人

#### ◆北阪神支部の会員数と組織率

6/30現在 医科329人(72%)、歯科178人(54%)

#### ◆医療をめぐる情勢と運動対策

医療・介護総合法により導入された特養などの利用者に対する補給給付判定の資産要件の導入の問題点について意見交換された。

#### ◆当面の支部活動

・10月4日(日)第30回総会・記念講演「地球温暖化と異常気象」

伊丹市立図書館ことば蔵 地下多目的室1

講師 国立研究開発法人環境研究所地球環境研究センター

気候変動リスク評価研究室長 江守 正多先生(4面に案内)

お問い合わせはTEL 078-393-1807 小西・横山・小川まで